

一気通貫のマーキングフィルム加工体制 アナログ・デジタル技術を様々な場面へ

同社は、車両や内外壁のマーキングフィルム加工（車体や壁に直接塗装せず、デザインや画像を印刷したフィルムを貼り付ける方法）で、国内の草分け的な存在。自社工場には特殊な印刷が可能な大型インクジェットプリンタを導入し、ラッピングバス・看板サイン・室内壁面装飾などの様々な媒体を手掛ける。2020年東京五輪・パラリンピック向けのラッピングバス18台（都内にて2018年8月より運行）をはじめ、多種多様な実績を持つ。近年は、デジタルコンテンツ事業にも力を注いでいる。

- | | | | |
|----------|---|--------|---------|
| ● 所在地 | 埼玉県さいたま市北区大成町4-140 | ● 設立 | 1981年 |
| ● 電話/FAX | 048-651-1881/048-664-7276 | ● 資本金 | 3,000万円 |
| ● URL | http://www.dessin.co.jp | ● 従業員数 | 87人 |
| ● 代表者 | 代表取締役社長 藤池 一誠 | | |



設備投資とワンストップサービスによる生産性向上

同社は、最新型UVインクジェットプリンタとラミネータを備え、またデザインから施工までのワンストップサービスを提供することで、高度な顧客要求への対応、リードタイムの短縮、低コストを両立する。とりわけ前者により、印刷速度は従前の1/3に、乾燥時間は従来の半分に削減された。さらに2014年4月より稼働した栗橋の新工場には全長20mと16mの「乾燥炉付超大型塗装ブース」や「集塵ブース」を完備し、大型特装車や建機の塗装も請け負える体制となった。



6年保証に対応したUV型IJプリンタ

マーキングフィルムと電子看板を連動させた広告の提供

同社は、看板の電子化（IT化）を数年前から予見し、デジタルサイネージ（電子看板）にも注力している。2020年の東京オリンピックに向けて需要が増加する多言語パネルをはじめ、AR（拡張現実）や顔認証などと連動させたコンテンツも提供可能。また、マーキングフィルムと電子看板との連動も視野に入れ、双方を一気通貫で請け負える体制を構築し、受注活動中。例えば店舗の電子看板とその前にあるショーウィンドーの装飾を自社で担うことができ、一体的な視覚効果を持たせた広告を実現できる。



機器の選定からコンテンツの作成まで

シニア人材並びに外国人人材の活用による技能伝承

塗装事業では、次世代への技能伝承を企図してシニア人材を有効活用している。公的資格である塗装技能士1級の取得を目標に掲げ、シニア技能者を講師とした次世代の育成教育を3か年計画で進める。2018年は、その第1ステップとして塗装技能士2級合格者3名の輩出に成功した。加えて、近年は外国人人材の活用も図っている。塗装事業においては、安定した有能な人材としてインドネシアの自動車や機械の知識を有する実習生を起用し、新事業展開においては、ミャンマーの工学系大卒社員を起用している。



社内SEとして頑張っています。